
どうしてこうなった...(機械転生・習作)

習作

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どうしてこうなった…（機械転生・習作）

【Nコード】

N7313Z

【作者名】

習作

【あらすじ】

主人公にとって死んだと思っていたら。

目が覚めたら変な老人に外に出れば近未来的な科学が発達した世界。

主人公「ちょ、まで！この世界はまさか……。そして俺は！？」

気付いた時には頭を抱える他にない、かつての名前を思い出せない部分記憶喪失者。

転生した肉体（？）にも色んな意味で問題が……。

第0面（前書き）

練習作としてこの作品を投稿します。

適当かもしれませんが。

一話、一話が短いかもしれませんが。

前作の方も思いだし次第、溜めこみつつ投稿します。

第0面

「・・・っ」

光が閉じた目を照らす。

その眩しさに痛いと思うような錯覚を覚えつつ目をゆっくりと開く。

「・・・？」

見覚えのない場所だ。

研究室様な場所。

身体を動かそうとしても何か固定されてるのか動かず。

ガラス越しに見えるそれに自身がポッドのような何かに居ると自覚する。

何かしらの怪我でも負ってここにいるのだろうか？

「目が覚めたようじゃな」

「・・・！」

突然の声に目を向けると白衣姿の老人がいる。

真ん中の部分の頭髪が薄く奇妙な感じがする。

「起動はさせてないはずだが、さて・・・。

まあよい。お前はわしが一番初めに作った戦闘用ロボット。

親の言う事には従うのじゃぞ」

何を言っているんだこの老人は？

俺は人間だ。

碌でもないぐうたらした生き方をしているがだからと言って知らない老人に従う必要は・・・？

俺・・・？

おかしい・・・。

記憶は確かにあるのだが名前が思い出せない。
どうということなんだ？

「・・・名前」

「ある程度、完成すれば名付けてやるわい。
お前はまだまだ未完成じゃからなあ。
じっとしておるのじゃぞ」

老人が去る。

不安が胸中を渦巻く。

名前を思い出せないのもそうだが現状の訳の解からなさに身体が震える。

「・・・あれは」

不安をまぎわらすために周りを見ると鏡が設置されている。
人間の等身を楽々と映し出せる大きさのだ。

そこを覗き込む。

「ちよ、まて！この世界はまさか・・・。そして俺は！？」

この姿に驚愕した。

先ほどの老人も奇妙な感じがしたが何となく覚えがあった。

俺はこれが荒唐無稽な妄想であってほしいと願う。
かつてないほどの現実逃避するのも仕方ないと言っても良いと思えるからだ。

どうしてこうなった・・・。

200X年

人類は新しい【友達】を手に入れた。

人間とロボットが仲良く暮らす、今からそう遠くない未来の事。

世界一の天才科学者トーマス・ライト博士の研究所で、一人のロボットが生まれました。

正義感が強く、誰にでも優しく、思いやりを忘れることのないその少年ロボットは【ロック】と名付けられ、身寄りの無かったライト博士は彼を実の息子のように可愛がりました。

それからしばらくして、ロックを基礎とした高性能なロボットが次々と作られました。

ライト博士の作ったロボットはとても熱心に働き誰からも愛されていました。

それとは変わり。

アルバート・ワイリー博士は心中穏やかではありませんでした。

彼のライバルであるライト博士が何もかも上手くいつているからです。

ワイリー博士も天才ではありませんでしたが一歩及ばず。

いつも彼の研究成果はあまり見向きされずライト博士の方に注目が行ってしまっていたからです。

それらの理由と合わせて古い機械が淘汰される現実には彼はこのまま高性能のロボットの発明が進み過ぎると人間にとってもロボットにとっても良くないと思いました。

物が大事にされてると思えなかったからです。

そのことを政府に掛け合っても無視されました。

ライト博士の名声の高さによる嫉妬と片づけられたのが原因でした。実際は目先の利益にとられ過ぎてる事をワイリーは伝えたかったのがライト博士の名声の高さによって潰されたと思います。

やがて彼はどうしようのない現実にはいつき、遂に世界征服を計画。

ライト博士の作ったロボットと陰で接触し、計画の為に改造をして暗躍します。

改造の際に手に入れたデータを元に計画が失敗した際の次の手として自らが戦闘用ロボットを作り始めます。

ライト博士のカットマンを元にワイリー博士が一番初めに作ったロボットを【メタルマン】と名付けられました。

現在の世界で一番堅いとされるセラミカルチタン製の手投げ式回転ノコギリ・メタルブレードを武器とした純粋な戦闘用ロボット。

彼が目覚める事から物語は始まる・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7313z/>

どうしてこうなった...(機械転生・習作)

2011年12月24日09時47分発行